

第66回 男鹿駅伝競走大会イベントレポート（第7回：7区）

【第7区】遂に最終区アンカー7区へ。



7区：8.38km（八望台～入道崎）



入道崎を望む（写真提供：男鹿なび）

まずはゴール地点の入道崎に触れると、男鹿市公認の観光サイトで今回写真もご提供頂いた「男鹿なび」さんのHPによれば、「入道崎」は他に「入道岬」や「入道埼」など色々な名で呼ばれているそうで、バス停の表示は「入道岬」、灯台は「入道埼灯台」とのこと。戦前に陸軍が「崎」、海軍が「埼」を使用していたことに由来するらしく、「岬」は一般的に使われていたと思われる。「入道埼灯台」は白黒の縞模様が印象的で「日本の灯台 50 選」に選ばれており、1898 年(明治 31 年)11 月 8 日に点灯を開始し、高さ 27.92m の灯台から 15 秒おきに発光する白い光は 37 キロ先まで到達するとのこと。是非、男鹿半島に足を運んで下さい！！



北緯 40 度モニュメントと入道埼灯台（写真提供：男鹿なび）

話は駅伝に戻って、全長 60km に及ぶレースも半島を約 1 周し、ついにゴールに至る。

最終 7 区は 6 区とは反対に高低差 150m を約 5km を使って緩やかなアップダウンを重ねながら下ってくる。下り切るとゴールの入道崎まではほぼ平坦だが、下った後の平坦は上っている様な錯覚に陥るため、思っている以上にキツイ。また、タスキを受けた勢いに任せて気持ちよく下ると、そこまでで足を使い切って乳酸が溜まり、身体が言うことを聞かなくなる。

更に、晴れて気温が上昇している場合、下りの箇所は木陰になっていて、陽が遮られるので走り易いが、下り切ると視界が開けて日影が全く無くなり、日差しに晒されるため一気に体感温度が上がって、気が付くと脱水症状でフワフワになる選手も多い危険な区間である。

事実、当社においても前田監督が選手時代にアンカーを務めた際、前方に見える選手を前半の下りで激しく追走していたが、平坦に入ったところで意識朦朧となって蛇行し始め、何とかゴールに辿り着いたものの、危うくアンカーで棄権になるところだった。



前日の調整練習を行う松本

今年 7 区を走るのは・・・写真を見てもお分かり頂ける通り、「夏が似合う男？」入社 1 年目のルーキー松本 流星である。佐賀県出身で資材部購買課に在籍し、現在は配属から 3 ヶ月あまり、まだ業務見習い中である。

松本は 1 区を走った小原の大学の後輩にあたり、入社後はまだ故障により記録会 1 レースしか走れておらず、環境変化への適合に少々苦戦している。小原先輩の話では、「普段はマイペースで、周りに流されない独自の感性の持ち主だが、駅伝になるとスイッチが入り九州男児の血が騒ぐのか闘志おき出しの熱い走りになるのが特徴。大学 4 年時に松本が入学してきて、高校上りでまだやんちゃだったため、集団生活をしていく中で上級生の立場から厳しく接するよう心掛けたが、一番可愛がっていた後輩でした。」とのこと。 当社でも先輩と一緒に頑張らないとね。

松本は八木沢から、追う選手のいる好位置でタスキを受けると、死にそうな八木沢とは対照的に、久々に駅伝を走れて嬉しくて仕方がない気持ちを隠し切れない満面の笑みで走り出した。監督車は大会役員の指示を受け八望台折返し地点をぐるっと一周して松本の後ろに付いた。その直後、少し長い下りに差し掛かったところで監督車の車中がどよめく。

「あいつは下りの走り方が・・・独特というか・・・何というか・・・素人過ぎやしないか???'」

そう、松本が極端に下りが苦手な感じが伝わってきた。上り下りには走り方があるが、意識しているのかいないのか、そうこうしているうちに前に行く学生に距離を置かれていく。



走れる喜び一杯に走り出す松本

だが、大丈夫か心配し始めた直後、次の細かな上りを上り始めた時、評価は一変する。

「上りはフォームがキレイだし、抜群にうまい走りをする・・・なんでこんなにも違うんだ???'」

そう、松本が抜群に上りが得意なのが分かった。上りを走る際は「腕で上る」と言われる通り、腕を前後にしっかり振って推進力にするイメージだが、キレイなフォームで教科書通りの走りが出来ている。こうして学生チームに対し、下りは離され上りで詰まるを繰り返してレースは進む。

中盤、松本はついに学生チームに追いつき、暫しの並走を経て一気に前へ出る。この時点で学生は一杯いっぱい徐々に差は広がり、自信を得た松本は更に自らを追い込んでいく。

前方には距離はあるが前に行く別の学生チームを視界に捉える。それと同時に車内のホルテージも最高となり、前田監督の給水とともにイケイケの声援で松本を更に煽っていく。

「イケるぞ！休むな！自信持っていけ！もう3km切ってるぞ！出し切れ！諦めるな！・・・」

最後の最後まで諦めずに学生チームを追った松本は、前のチームには僅か6秒届かなかったが、見事区間賞の走り、一般の部を大よそぶっちぎりで勝っているチームとは思えないほどに苦しい表情で連覇となる入道崎のゴールテープを切り、60kmにおよんだ駅伝は今年も無事に幕を閉じた。



苦しみの表情で連覇達成のゴール！！ 流星 お疲れ様でした！！

【7区成績】一般の部

距離 : 8.38km
順位 : 1/39 位 (大学を含む全体順位 : 5/53 位)
タイム : 25 分 01 秒 (目標タイム : 24 分 30 秒)



【チームメンバー・サポートメンバー】

前田 衆（監督：資材部電装資材課）
小原 大輔（1区走者：経理部管理課）
渡辺 瑠偉（2区走者：工場管理部部長付）
加藤 平（3区走者：情報システム部システム課）
石原 洸（4区走者：新エネルギー事業本部管理部生産管理課）
松谷 公靖（5区走者：新エネルギー事業本部管理部生産管理課）
八木沢直也（6区走者：経理部管理課）
松本 流星（7区走者：資材部購買課）
佐野 雅治（カメラマン：工場管理部工場総務課）

・土屋 天地（1区付添：人事部労務課）
・加藤 直樹（コーチ：2区付添：新エネルギー事業本部管理部生産管理課）
・平塚 祐三（3区付添：電子デバイス事業本部管理部管理課）
・高橋 賢二（4区付添：(株)秋田新電元 管理部管理課長）
・片岡 利則（5区付添：(株)秋田新電元 総務部環境管理課）
・佐々木弘樹（6区付添：(株)秋田新電元 管理部管理課）
・鈴木 正樹（7区付添：(株)秋田新電元 総務部総務課）

【大会協力者】

鈴木 吉憲（新電元工業(株) 代表取締役社長：監督車同乗応援）
堀口 健治（新電元工業(株) 取締役上席執行役員 工場長：監督車同乗応援）
松尾 博文（新電元工業(株) 執行役員 電子デバイス事業本部副本部長 (株)秋田新電元取締役社長：沿道応援）
真坂 知永（(株)秋田新電元 取締役工場長：沿道応援）
佐々木範文（(株)秋田新電元 総務部長：沿道応援）
藤原 宏（(株)秋田新電元 総務部総務課長：沿道応援）
小松 美加（(株)秋田新電元 総務部総務課：沿道応援）
北出 晃（新電元工業(株) 工場管理部部長：監督車給水役）
佐藤 圭一（新電元工業(株) 情報システム部システム課長：カメラマン：沿道応援）
高野美恵子（新電元工業(株) 電子デバイス事業本部管理部管理課：タイム差計測：沿道応援）
佐々木直子（新電元工業(株) 経理部管理課：沿道応援）
中山 順詞（新電元工業(株) 経理部管理課：監督車運転：イベントレポート発行）

【敬称略】

当社陸上競技部に対するご声援、誠に有難う御座いました！！